

# 狩野派绘画史



[狩野派绘画史\\_下载链接1](#)

著者:[日]武田恒夫

出版者:吉川弘文馆

出版时间:1995-12-1

装帧:平装

isbn:9784642074759

日本绘画史上的狩野派，在长达四百年的时间里形成了强大的势力，并霸占了日本画坛的中枢为止。本书是第一本以实证方法从其发端、成立开始，历经大成、转型、展开直至终结的历史进程中追寻其踪迹的著作。同时本书对于支撑流派活动的背后“支持层”的详尽论述，也开创了狩野派史论的独特层面。

作者介绍:

武田恒夫

日本著名美术史学家，主要从事日本中近世美术史研究。

1925年生于日本京都府

1951年毕业于京都大学文学部哲学科

历任京都国立博物馆美术室长、大阪大学教授

现任大阪大学名誉教授、大手前大学教授、文学博士

主要著作

《洛中洛外图》（1966年 角川书店）

《桃山の花鳥と風俗》（1971年 日本放送出版协会）

《近世初期障屏画の研究》（1983年 吉川弘文馆）

目录: 序

凡例

I 成立

第一章 発端

1 寛正四年

2 狩野助

3 筆様方式

第二章 形成

1 支持層の獲得

2 生活空間の変貌

3 画体と流派

II 大成

第一章 画壇の制覇

1 永禄期の画壇

2 時代の先駆

3 大画構成

第二章 時代の傾き

1 倭絵の風情

2 伏見と大阪

3 内裏と徳川

第三章 時世粧

1 洛中洛外

2 武家と祭礼

3 南蛮渡来

第四章 絵師の序列化

- 1 名古屋城本丸御殿
- 2 元和期の動向
- Ⅲ 変容
- 第一章 広間の荘厳
  - 1 探幽登場
  - 2 画題と格式
- 第二章 家法一変
  - 1 減筆体
  - 2 景物画
  - 3 納涼と裸形
  - 4 写生の試み
- 第三章 体制補完
  - 1 画論・画人伝の編述
  - 2 粉本の効用と蓄積
- Ⅳ 展開
- 第一章 幕藩御用
  - 1 諸家の分立
  - 2 幕府御抱え
  - 3 諸藩御抱え
- 第二章 分脈
  - 1 京狩野
  - 2 上方の狩野派
  - 3 体制逸脱
- Ⅴ 協業
- 第一章 内裏障壁画
  - 1 寛永度以前
  - 2 承応度以後
- 第二章 朝鮮国王への屏風
  - 1 天和度以前
  - 2 正徳度以後
- 第三章 江戸障壁画
  - 1 天保・弘化度
  - 2 絵様の展開
- 終焉――結びに代えて
  - 1 幕末の木挽町家
  - 2 維新以来
- 初出一覧
- 基本参考文献
- 注
- 江戸狩野御用絵師家系図
- 奥絵師系図
- 表絵師系図
- 年表
- 参考文献
- あとがき
- 索引
- ・ ・ ・ ・ ・ ( [收起](#) )

[狩野派绘画史\\_下载链接1](#)

## 标签

绘本

近现代史

艺术史

艺术

美术史

狩野派

武田恒夫

日本繪畫史

## 评论

草草翻了一下，重讀Painting of the Realm時可能要對著參考一下

-----  
[狩野派绘画史\\_下载链接1](#)

## 书评

-----  
[狩野派绘画史\\_下载链接1](#)